

【21】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	小児科学 (Pediatrics)
研究指導教員	山 本 仁
研究・教育の概略	小児科学とは、小児の保健、健康を研究することを基礎として、さらに種々の疾病を有する患児を診断し、治療することを研究する臨床科学である。したがって、小児科学を研究するために小児の正常の発育、発達、栄養について十分な知識をもっていなければならないことは、当然であるが、成人を含めた病態生理学にも精通していることが必要である。 臨床的には、generalityとして 小児科専門医を取得し、臓器別の subspeciality の道も目指す。 研究としては、「オリジナリティーの高い研究(臨床研究、動物実験による研究)を遂行し、その成果を論文にまとめあげる」という課程を通じて「将来自立して研究ができて、後輩の研究指導ができる」を目標とする。
研究項目	1. 各種予防接種と細胞性免疫、百日咳流行株の遺伝子変異について 2. 胎盤循環から肺循環への適応の諸問題:①心機能から見た適応の研究 3. // :②肺機能から見た適応の研究 4. 母乳栄養推進と母子愛情形成に及ぼす阻害因子の検討と対策 5. 腎疾患(CKD)における進展・増悪因子の検討 6. 小児喘息と環境、食物アレルギーの抗原と発症機序 7. 脳における低酸素性虚血性病変の診断と治療(新生児および動物実験も含めて) 8. 小児の成長とホルモンとの関係:成長ホルモンと性分化異常症 9. 小児出血性疾患および血栓性疾患における凝固因子・線溶因子の検討:トロンビン・ジェネレーションの臨床的意義 10. 小児神経疾患に及ぼす酸化ストレスの研究
準備学習(予習・復習)	小児科学は非常に幅の広い学問分野であり、対象は新生児から学童期に及んでいる。精神、運動面で発達変化していくことが大きな特徴である。小児科を学ぶ準備段階として正常な小児の新生児から学童期に渡る発育、発達を学習しておく事が重要である。

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	小児科学	
講義題目	新生児学Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	北東 功	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	正常新生児の適応過程の理解			
講義計画	正常新生児症例を通して出生後の適応生理を理解し、実際に個々の管理法を体得する。 母親の泌乳過程と心理を理解し、よりよいコミュニケーション法を体得する。			
達成目標	1. 正常新生児の適応過程を説明できる。 2. 新生児低血糖、新生児黄疸、水分電解質、酸-塩基平衡管理法を計画できる。 3. 母乳育児支援のしくみを説明できる。			
教科書・参考書	母乳育児成功のための10カ条のエビデンス			
準備学習(予習・復習・時間)	正常新生児の基礎知識を学んでおく。 1 時間			
成績評価法	境界領域の症例シミュレーションに基づく討議内容の評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)			
1	新生児の呼吸適応・経膈分娩での呼吸適応			
2	帝王切開での呼吸適応・新生児一過性多呼吸			
3	新生児の循環適応・動脈管の意義・卵円孔の意義			
4	胎盤循環から肺循環へ・新生児特発性肺高血圧症			
5	新生児体温調節・分娩室での体温低下			
6	出生直後の skin to skin			
7	新生児の血液・貧血と多血			
8	母体出血による影響			
9	新生児のエネルギー代謝・新生児低血糖のしくみ・新生児低血糖への対処			
10	新生児黄疸・光線療法の適応			
11	腸肝循環の理解			
12	新生児飢餓と吸啜意欲・体重減少と脱水の鑑別			
13	NRP にもとづく新生児蘇生法・新生児仮死の病態理解			
14	母乳栄養・完全母乳栄養と母子同室			
15	乳業メーカー関与が母乳育児阻害因子となる・母乳分泌遅延に対する対処法			

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	小児科学	
講義題目	新生児学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	北東 功	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	新生児呼吸障害の病態の理解			
講義計画	種々の新生児呼吸障害の成因・病態・経過・診断・管理法について			
達成目標	1. 新生児期に特有な呼吸障害について病態を踏まえて説明できる。 2. 新生児呼吸管理法を自ら行うことができる。			
教科書・参考書	Assisted Ventilation of the Neonate			
準備学習(予習・復習・時間)	新生児特有の呼吸状態を学んでおく。 1 時間			
成績評価法	筆記・口頭試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	胎児期の呼吸器の発育・肺成熟度評価
2			2	RDS・人工サーファクタント
3			3	TTN・MAS
4			4	空気遮断・無呼吸発作
5			5	慢性肺疾患・肺の形成異常
6			6	先天性食道閉鎖・横隔膜ヘルニア
7			7	Dry lung syndrome・呼吸機能評価
8			8	新生児期管内挿管
9			9	IMV・HFO・様々な換気法(PTV 等)
10			10	Lung protective policy・人工換気と循環
11			11	気道損傷の予防・気道吸引法・肺理学療法
12			12	体位性ドレナージ・気管切開
13			13	NO 吸入療法・ECMO
14			14	呼吸器疾患と薬物療法
15			15	テオフィリン・ステロイド吸入療法

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	小児科学	
講義題目	一般小児科学 I		必修/選択	必修
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	小児の栄養、小児保健を理解できる。			
講義計画	小児の栄養、栄養所要量、小児保健全体について学習する。			
達成目標	1. 小児の栄養、栄養所要量について理解する。 2. 小児保健全体、学校保健について理解する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期それぞれの時期での必要な栄養について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	小児栄養の意義		1	
2	栄養素の代謝:糖質代謝		2	
3	栄養素の代謝:脂質代謝		3	
4	栄養素の代謝:蛋白質代謝		4	
5	小児の栄養所要量:水分		5	
6	小児の栄養所要量:エネルギー		6	
7	小児の栄養所要量:蛋白質		7	
8	小児の栄養所要量:脂質・糖質		8	
9	ビタミン欠乏症・過剰症		9	
10	新生児マススクリーニング		10	
11	乳幼児健康調査・健康診断		11	
12	学校保健		12	
13	心臓検診		13	
14	腎臓検診		14	
15	小児保健統計		15	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	小児科学	
講義題目	一般小児科学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	右田王介	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	小児の成長・発達・成熟および発育の概念と定義を理解する。			
講義計画	小児期特有の発達、成長、発育を理解した上で、病的な状態を学習する。			
達成目標	1. 基本的な小児の発育に関する因子を理解できる。 2. 基本的な小児の身体構成と年齢的变化を理解、発表できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	正常な小児の成長、発育について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	発育期の分類
2			2	発育の一般原則
3			3	遺伝因子・環境因子
4			4	胎児の発育
5			5	成長:体重・身長・頭囲
6			6	歯の成長
7			7	骨年齢
8			8	体脂肪
9			9	体水分量
10			10	骨格筋
11			11	成長の評価:身体計測
12			12	発育指数
13			13	成長曲線
14			14	成長速度曲線
15			15	青年期の身長・体重の変化

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	小児科	
講義題目	小児血液学Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	瀧 正志	担当教員連絡先	内線:西部病院 3209	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づき小児の血液疾患の病態を理解する			
講義計画	種々の小児の血液疾患の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法を検討する。			
達成目標	1. 基本的な小児の血液疾患について論理的に診断、鑑別できる。 2. 基本的な小児の血液疾患について病態に基づいた治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の血液疾患の特徴を学習準備する。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	造血のしくみ-1		1	止血のしくみ-1
2	造血のしくみ-2		2	止血のしくみ-2
3	造血のしくみ-3		3	止血のしくみ-3
4	造血のしくみ-4		4	止血のしくみ-4
5	造血のしくみ-5		5	止血のしくみ-5
6	小児の赤血球系疾患-1		6	小児の出血性疾患-1
7	小児の赤血球系疾患-2		7	小児の出血性疾患-2
8	小児の赤血球系疾患-3		8	小児の出血性疾患-3
9	小児の赤血球系疾患-4		9	小児の出血性疾患-4
10	小児の赤血球系疾患-5		10	小児の出血性疾患-5
11	小児の赤血球系疾患-6		11	小児の出血性疾患-6
12	小児の赤血球系疾患-7		12	小児の血栓性疾患-1
13	小児の赤血球系疾患-8		13	小児の血栓性疾患-2
14	小児の赤血球系疾患-9		14	小児の血栓性疾患-3
15	小児の赤血球系疾患-10		15	小児の血栓性疾患-4

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	小児科		
講義題目	小児神経疾患		必修/選択	必修	
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づき小児の神経疾患の病態を理解する				
講義計画	小児の神経疾患の症例を通して神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管理方法を考えていく。				
達成目標	1. 基本的な小児神経疾患について診断、鑑別ができる。 2. それに伴う治療方針が立てられる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	正常な神経発達について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	小児の神経系の発達―1		1	小児のけいれん性疾患―1(慢性疾患)	
2	小児の神経系の発達―2		2	小児のけいれん性疾患―2	
3	小児の神経系の発達―3		3	小児のけいれん性疾患―3	
4	小児の神経系の発達―4		4	小児のけいれん性疾患―4	
5	小児の神経系の発達―5		5	小児のけいれん性疾患―5	
6	小児の神経系の発達―6		6	神経皮膚症候群―1	
7	小児のけいれん性疾患―1(急性疾患)		7	神経皮膚症候群―2	
8	小児のけいれん性疾患―2		8	神経皮膚症候群―3	
9	小児のけいれん性疾患―3		9	神経皮膚症候群―4	
10	小児のけいれん性疾患―4		10	神経皮膚症候群―5	
11	小児のけいれん性疾患―5		11	筋緊張低下児―1	
12	小児のけいれん性疾患―6		12	筋緊張低下児―2	
13	小児のけいれん性疾患―7		13	筋緊張低下児―3	
14	小児のけいれん性疾患―8		14	筋緊張低下児―4	
15	小児のけいれん性疾患―9		15	筋緊張低下児―5	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	小児科	
講義題目	感染症学		必修/選択	必修
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な感染症の病態を理解する			
講義計画	種々の基本的な感染症疾患を病態を通して理解し治療法を検討する			
達成目標	1.基本的な感染症疾患について病態を理解し、論理的に説明できる 2.基本的な感染症疾患の病態に基づいた治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に特有な感染症について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	感染症概論		1	
2	臓器別感染症Ⅰ(中枢神経、呼吸器)		2	
3	臓器別感染症Ⅱ(消化器、肝胆道系)		3	
4	臓器別感染症Ⅲ(循環器、腎泌尿器)		4	
5	臓器別感染症Ⅳ(運動器、皮膚、その他)		5	
6	特殊な状況下での感染症		6	
7	細菌感染症Ⅰ		7	
8	細菌感染症Ⅱ		8	
9	細菌感染症Ⅲ		9	
10	細菌感染症Ⅳ		10	
11	ウイルス感染症Ⅰ		11	
12	ウイルス感染症Ⅱ		12	
13	ウイルス感染症Ⅲ		13	
14	ウイルス感染症Ⅳ		14	
15	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア		15	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	小児科	
講義題目	ワクチン学		必修/選択	必修
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	各種予防接種(ワクチン)について理解する			
講義計画	各種予防接種(ワクチン)の効果、副反応等を理解し接種計画を立てる			
達成目標	1.各種予防接種(ワクチン)の接種時期、効果、副反応等を説明できる 2.ワクチンの基本的な手技ができる。基礎疾患のある児への対応について説明できる。			
教科書・参考書	予防接種の手引き(近代出版)			
準備学習(予習・復習・時間)	予防接種とは何かを学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	予防接種の概要
2			2	予防接種のリスクマネジメント
3			3	疾患とワクチン①(麻疹)
4			4	疾患とワクチン②(風疹)
5			5	疾患とワクチン③(DTP)
6			6	疾患とワクチン④(ポリオ)
7			7	疾患とワクチン⑤(BCG)
8			8	疾患とワクチン⑥(日本脳炎)
9			9	疾患とワクチン⑦(インフルエンザ)
10			10	疾患とワクチン⑧(ムンプス)
11			11	疾患とワクチン⑨(水痘)
12			12	疾患とワクチン⑩(A 型、B 型肝炎)
13			13	疾患とワクチン⑪(Hib、肺炎球菌、他)
14			14	基礎疾患のある児への予防接種
15			15	予防接種と関連する法律

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	小児科	
講義題目	小児循環器病学Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する			
講義計画	先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。			
達成目標	1. チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 2. 非チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	先天性心疾患について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	チアノーゼ性心疾患の診断1		1	
2	チアノーゼ性心疾患の診断2		2	
3	チアノーゼ性心疾患の診断3		3	
4	チアノーゼ性心疾患の管理1		4	
5	チアノーゼ性心疾患の管理2		5	
6	チアノーゼ性心疾患の管理3		6	
7	非チアノーゼ性心疾患の診断1		7	
8	非チアノーゼ性心疾患の診断1		8	
9	非チアノーゼ性心疾患の診断2		9	
10	非チアノーゼ性心疾患の診断3		10	
11	非チアノーゼ性心疾患の診断4		11	
12	非チアノーゼ性心疾患の管理1		12	
13	非チアノーゼ性心疾患の管理2		13	
14	非チアノーゼ性心疾患の管理3		14	
15	非チアノーゼ性心疾患の管理4		15	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	小児科	
講義題目	小児循環器病学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する			
講義計画	小児期の不整脈および後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。			
達成目標	1. 小児期不整脈の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 2. 後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	小児の循環器疾患の基礎を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓢ)		後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1			1	新生児不整脈総論1
2			2	新生児不整脈総論2
3			3	新生児不整脈各論1
4			4	新生児不整脈各論2
5			5	小児期不整脈総論1
6			6	小児期不整脈総論2
7			7	小児期不整脈各論1
8			8	小児期不整脈各論2
9			9	後天性心疾患総論1
10			10	後天性心疾患総論2
11			11	後天性心疾患各論1
12			12	後天性心疾患各論2
13			13	後天性心疾患各論3
14			14	後天性心疾患各論4
15			15	後天性心疾患各論5

講義担当者承認

Ⓢ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	小児科学	
講義題目	小児内分泌・代謝学Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	曾根田 瞬	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	小児期に発症する内分泌・代謝疾患の基礎的事項と問題点を理解する			
講義計画	小児における内分泌・代謝疾患の病態を理解し、管理方法について検討する			
達成目標	1. 基本的な内分泌・代謝疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な内分泌・代謝疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の代謝、内分泌疾患にはどのようなものがあるか学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	総論1:ホルモンとその作用について		1	各論10:性分化異常症
2	総論2:小児の成長とホルモンの関係		2	症例検討会①
3	総論3:マス・スクリーニングについて		3	各論11:水・電解質異常
4	総論4:内分泌・代謝疾患と遺伝学		4	各論12:骨代謝異常
5	総論5:負荷試験の実際		5	各論13:染色体・遺伝子異常疾患
6	特集抄読会:内分泌・代謝班		6	各論14:小児糖尿病の疫学・病態
7	各論1:視床下部・下垂体ホルモン		7	各論15:1型糖尿病・2型糖尿病
8	各論2:成長ホルモンと関連疾患		8	各論16:インスリン治療・その他
9	各論3: 汎下垂体機能低下症		9	各論17:小児メタボリックシンドローム
10	各論4:甲状腺ホルモンの作用と調節		10	各論18:高脂血症・高尿酸血症
11	各論5:先天性甲状腺機能低下症		11	各論19:低血糖をきたす疾患
12	各論6:自己免疫性甲状腺疾患		12	各論20: 高アンモニア・乳酸血症
13	各論7:副腎の構造とホルモンの作用		13	症例検討会②
14	各論8:先天性副腎過形成症		14	総括・復習1:
15	各論9:ゴナドトロピンと性腺ホルモン		15	総括・復習2:

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	小児科	
講義題目	小児悪性腫瘍Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	森 鉄也	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	主な小児悪性腫瘍疾患について病態、診断方法、治療法を理解する。			
講義計画	小児悪性腫瘍の症例を通して、病態、診断、治療について検討する。			
達成目標	1. 代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 2. 代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3. 小児に対する化学療法について修得する。 4. 化学療法の急性および慢性の合併症に対する予防と対策について修得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い悪性腫瘍を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義中の受講態度、発言による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	小児悪性腫瘍の疫学		1	小児悪性リンパ腫の疫学
2	小児悪性腫瘍の遺伝学		2	小児悪性リンパ腫の病態
3	小児急性リンパ性白血病の病態		3	小児悪性リンパ腫の診断
4	小児急性リンパ性白血病の診断方法		4	小児悪性リンパ腫の治療
5	小児急性リンパ性白血病の治療		5	小児悪性腫瘍の遺伝子診断
6	小児急性骨髄性白血病の病態		6	小児悪性腫瘍の免疫診断
7	小児急性骨髄性白血病の診断方法		7	小児悪性腫瘍の病理診断
8	小児急性骨髄性白血病の治療		8	小児悪性腫瘍における細菌感染症
9	化学療法の実際		9	小児悪性腫瘍におけるウイルス感染
10	化学療法の急性毒性		10	小児悪性腫瘍における真菌感染症
11	化学療法の晩期障害		11	小児悪性腫瘍患者の栄養管理
12	小児慢性白血病の病態・診断・治療		12	小児悪性腫瘍患者の感染予防
13	小児悪性固形腫瘍の病態		13	小児悪性腫瘍患者の輸血
14	小児悪性固形腫瘍の診断		14	小児悪性腫瘍患者の緩和医療
15	小児悪性固形腫瘍の治療		15	小児悪性腫瘍患者の疼痛対策

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	小児科学	
講義題目	小児腎臓病学 I		必修/選択	必修
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づき腎臓・泌尿器疾患の病態と集学的治療を理解する			
講義計画	腎臓・泌尿器の解剖・組織、生理学を理解した上で、症例に基づき代表的な腎臓・泌尿器疾患の病態と治療を学習する。			
達成目標	1. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患についての診断・鑑別ができる。 2. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の腎臓病の特徴を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	双方向性の講義を計画しており、講義への関与・貢献度(積極発言を含む)で評価したい			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	腎臓・泌尿器の発生学－1	1	腎生検の適応と臨床評価－1	
2	” －2	2	” －2	
3	先天性腎泌尿器疾患の種類と病態と集学的治療－1	3	腎・泌尿器感染症の診断と治療－1	
4	” －2	4	” －2	
5	” －3	5	検尿データが読める－1	
6	腎臓・泌尿器の正常組織－1	6	” －2	
7	” －2	7	学校検尿の判定と評価－1	
8	腎臓疾患の病理像－1	8	” －2	
9	” －2	9	乳幼児ARFの病態の理解－1	
10	” －3	10	” －2	
11	糸球体機能と尿細管機能とその検査法－1	11	乳幼児CRFの病態の理解－1	
12	” －2	12	” －2	
13	小児水・電解質代謝とその異常－1	13	小児輸液療法の理論と実際－1	
14	” －2	14	” －2	
15	” －3	15	” －3	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	小児科学	
講義題目	小児呼吸器・アレルギー		必修/選択	必修
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	小児の呼吸器疾患、アレルギー疾患(食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息)の病態、症状、治療を学習する			
講義計画	小児呼吸器の特性とアレルギーのメカニズムを理解し、各疾患の治療を理解する。			
達成目標	1. 代表的な小児呼吸器疾患の診断・治療ができる。 2. 食物アレルギーの診断、食事・栄養指導ができる。 3. アトピー性皮膚炎、気管支喘息の診断、治療ができる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の呼吸器、アレルギー疾患で多いものを学習しておく。 1 時間			
成績評価法	講義の理解度、積極性などを総合して評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	小児呼吸器の特徴-1	1	アレルギーのメカニズム-1	
2	小児呼吸器の特徴-2	2	アレルギーのメカニズム-2	
3	喘鳴をきたす疾患-1	3	アレルギーのメカニズム-3	
4	喘鳴をきたす疾患-2	4	アレルギーの検査-1	
5	小児の肺炎・気管支炎-1	5	アレルギーの検査-2	
6	小児の肺炎・気管支炎-2	6	食物アレルギー-1	
7	小児の肺炎・気管支炎-3	7	食物アレルギー-2	
8	小児の気胸	8	アトピー性皮膚炎-1	
9	気管支異物	9	アトピー性皮膚炎-2	
10	気管支喘息-1	10	アレルギー性鼻炎-1	
11	気管支喘息-2	11	アレルギー性鼻炎-2	
12	気管支喘息-3	12	外用薬の使用法	
13	胸部X線のみかた-1	13	抗アレルギー薬の使用法	
14	胸部X線のみかた-2	14	食物負荷試験の実際-1	
15	胸部X線のみかた-3	15	食物負荷試験の実際-2	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード		専攻分野	小児科学	
講義題目	小児科実習		必修/選択	必修
担当教員	右田王介	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1年	
テーマと目的	小児に対する実技を習得する			
講義計画	検査や手技の実技、実習を実際の検査などを通じて行う			
達成目標	必要な検査・手技を正確に、患児に負担なく実施できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児科特有の手技について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	実技の習得、到達度			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席㊥)	後期(回)	内 容 (出席㊥)
1	小児診察法—1		1	乳幼児健診—1
2	小児診察法—2		2	乳幼児健診—2
3	小児診察法—3		3	乳幼児健診—3
4	小児診察法—4		4	心臓カテーテル検査—1
5	小児診察法—5		5	心臓カテーテル検査—2
6	小児の採血と点滴の手技—1		6	心臓カテーテル検査—3
7	小児の採血と点滴の手技—2		7	脳波所見の読み方—1
8	小児の採血と点滴の手技—3		8	脳波所見の読み方—2
9	小児の髄液採取の手技		9	脳波所見の読み方—3
10	小児の骨髄液採取の手技		10	予防接種の実際—1
11	小児救急—気管内挿管の手技		11	予防接種の実際—2
12	小児救急—心肺蘇生法		12	予防接種の実際—3
13	小児救急—ハイムリック法		13	腎生検の実際—1
14	新生児蘇生—1		14	腎生検の実際—2
15	新生児蘇生—2		15	腎生検の実際—3

講義担当者承認

Ⓢ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	小児科	
講義題目	小児循環器病学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する			
講義計画	先天性心疾患の出生前診断および出生後の管理を理解する			
達成目標	1. 先天性心疾患の出生前診断について症例に基づいて説明できる。 2. 出生後の管理、治療方針を症例に基づいて計画できる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に特有な心疾患について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	出生前診断総論1		1	
2	出生前診断総論2		2	
3	出生前診断各論1		3	
4	出生前診断各論2		4	
5	出生前診断各論3		5	
6	出生後管理総論1		6	
7	出生後管理総論2		7	
8	出生後管理各論1		8	
9	出生後管理各論2		9	
10	出生後管理各論3		10	
11	出生前治療総論		11	
12	出生前治療各論		12	
13	出生後治療総論		13	
14	出生後治療各論1		14	
15	出生後治療各論2		15	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	小児科		
講義題目	免疫学		必修/選択	選択	
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	原発性免疫不全症候群の基本を理解する				
講義計画	症例を通して、原発性免疫不全症候群は易感染性を呈する症状から診断を疑い、種々の生化学検査によって確定診断へと導く				
達成目標	1.原発性免疫不全症候群診断のアプローチができる 2.原発性免疫不全症候群患者の感染のコントロールと治療が説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	免疫不全とは何か学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	原発性免疫不全症の分類		1		
2	原発性免疫不全症の診断		2		
3	原発性免疫不全症の治療		3		
4	原発性免疫不全症患者の感染コントロール		4		
5	各論①(複合型免疫不全症)		5		
6	各論②(抗体不全免疫不全症)		6		
7	各論③(他に大きな欠損を付随した免疫不全症)		7		
8	各論④(食細胞系異常)		8		
9	各論⑤(補体因子欠損症)		9		
10	各論⑥(その他の免疫不全症)		10		
11	各論⑦(HIV)		11		
12	各論⑧(ウイルス感染と続発性免疫不全)		12		
13	各論⑨(薬物)		13		
14	自己免疫とリウマチ性疾患総論		14		
15	自己免疫とリウマチ性疾患各論		15		

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	小児科学	
講義題目	新生児学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	北東 功	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	低出生体重児・早産児の管理			
講義計画	低出生体重児の総合管理について学ぶ			
達成目標	1. 適切な・輸液・栄養管理 2. 中枢神経保護 3. 親子関係 4. 適切な哺育環境の整備			
教科書・参考書	Avery,Fletcher,MacDonald:Neonatology			
準備学習(予習・復習・時間)	低出生体重児の特徴を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	口頭試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓔ)			
1	低出生体重児の水分代謝・不感蒸泄と腎機能			
2	腎の Na 維持能力・超低出生体重児の高 K 血症			
3	母乳による低出生体重児の哺育・未熟児骨代謝性疾患の管理			
4	中心静脈カテーテル挿入法・高カロリー輸液・栄養状態の評価			
5	新生児脳障害の理解・低酸素性虚血性脳症の管理			
6	新生児頭蓋内出血への対処・低出生体重児の脳室内出血の予防			
7	脳室周囲白質軟化症			
8	中枢神経奇形への対処			
9	成熟度評価・発達評価			
10	NICU 入院児の親の心理・母子分離下の母乳育児			
11	親参加型ケアとは・タッチケア			
12	カンガルーケア			
13	NICU 環境の整備・新生児へのなだめ			
14	音環境・光環境・温度環境			
15	新生児行動評価・ストレスサイン・ポジショニング			

講義担当者承認

Ⓔ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(19)

講義コード	※	専攻分野	小児科	
講義題目	小児血液学Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	瀧 正志	担当教員連絡先	内線：西部病院 3209	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づき小児の輸血感染症の病態を理解する			
講義計画	種々の小児の輸血感染症の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法を検討する。			
達成目標	1. 基本的な小児の輸血感染症について論理的に診断、鑑別できる。 2. 基本的な小児の輸血感染症について病態に基づいた治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	輸血感染症にはどのようなものがあるか学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	HBV-1
2			2	HBV-2
3			3	HBV -3
4			4	HBV -4
5			5	HBV -5
6			6	HCV-1
7			7	HCV -2
8			8	HCV -3
9			9	HCV -4
10			10	HCV -5
11			11	HIV-1
12			12	HIV -2
13			13	HIV -3
14			14	HIV -4
15			15	HIV -5

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(20)

講義コード	※	専攻分野	小児科学		
講義題目	アレルギー疾患		必修/選択	選択	
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	アレルギー疾患の外来フォローの仕方、環境との関係、家族への対処を学ぶ				
講義計画	具体的な症例を提示し、アレルギー疾患の実際を学ぶ				
達成目標	1. アレルギー疾患の外来フォロー、家族への対処ができる。 2. アレルギー児を持つ親の心理的負担などを理解する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	アレルギーという概念を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	講義の理解度、積極性				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容	(出席㊟)
1	小児喘息と環境－1		1		
2	小児喘息と環境－2		2		
3	小児喘息の外来フォロー－1		3		
4	小児喘息の外来フォロー－2		4		
5	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン－1		5		
6	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン－2		6		
7	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン－3		7		
8	食物アレルギーの外来フォロー－1		8		
9	食物アレルギーの外来フォロー－2		9		
10	One airway,one disease とは－1		10		
11	One airway,one disease とは－2		11		
12	アレルギー児を持つ家族－1		12		
13	アレルギー児を持つ家族－1		13		
14	アレルギー疾患今後の展望－1		14		
15	アレルギー疾患今後の展望－2		15		

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(21)

講義コード	※	専攻分野	小児科学	
講義題目	小児内分泌・代謝学Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	曾根田 瞬	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	小児期に発症する特殊な内分泌・代謝疾患を理解し診断・管理能力を身につける			
講義計画	小児における特殊な内分泌・代謝疾患を知り、病態・診断法・管理について検討する			
達成目標	1. 比較的稀な内分泌・代謝疾患について病態と遺伝学的特徴について理解する 2. 特殊な内分泌・代謝疾患の診断方法と病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い内分泌、代謝疾患を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	総論1:内分泌臓器の発生について
2			2	総論2:集団検診の役割
3			3	総論3:遺伝子診断の適応と実際
4			4	総論4:代謝疾患診断における特殊検査
5			5	総論5: 特殊ミルクによる治療について
6			6	症例検討会①
7			7	各論1:下垂体発生に関わる転写因子
8			8	各論2:腫瘍性疾患と内分泌異常
9			9	各論3:自己免疫性多腺性内分泌障害
10			10	各論4:先天性副腎機能低下症
11			11	各論5:骨系統疾患
12			12	各論6:低血糖をきたす代謝異常症
13			13	各論7:特殊な先天代謝異常症
14			14	各論8:稀な染色体・遺伝子異常
15			15	総括・復習

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(22)

講義コード	※	専攻分野	小児科	
講義題目	小児悪性腫瘍Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	森 鉄也	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	主な小児悪性腫瘍疾患について病態、診断方法、治療法を理解する。			
講義計画	小児悪性腫瘍の症例を通して、病態、診断、治療について検討する。			
達成目標	1. 代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 2. 代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3. 小児悪性腫瘍に対する臨床試験について理解する。 4. 小児悪性腫瘍の臨床試験を立案する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期特有の悪性疾患について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義中の受講態度、発言による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	臨床試験の歴史		1	
2	臨床試験の目的		2	
3	標準治療と臨床試験の違い		3	
4	臨床試験の計画方法		4	
5	臨床試験の統計学		5	
6	小児悪性腫瘍の EBM		6	
7	小児悪性腫瘍の国際共同研究		7	
8	小児悪性腫瘍に関わる倫理		8	
9	小児悪性腫瘍のデータ管理		9	
10	小児悪性腫瘍の社会的問題		10	
11	インフォームドコンセントとアセント		11	
12	小児がんのトランスレーショナルリサーチ		12	
13	小児悪性腫瘍の分子標的治療		13	
14	小児悪性腫瘍の新規治療		14	
15	小児悪性腫瘍の免疫療法		15	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(23)

講義コード	※	専攻分野	小児科	
講義題目	小児筋疾患		必修/選択	選択
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づき小児の神経疾患の病態を理解する			
講義計画	小児の筋疾患の症例を通して神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管理方法を考えていく。			
達成目標	1. 基本的な小児筋疾患について診断、鑑別ができる。 2. それに伴う治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期からみられる筋疾患について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	筋ジストロフィーー1
2			2	筋ジストロフィーー2
3			3	筋ジストロフィーー3
4			4	筋ジストロフィーー4
5			5	筋ジストロフィーー5
6			6	筋ジストロフィーー6
7			7	筋ジストロフィーー7
8			8	筋ジストロフィーー8
9			9	ミトコンドリア脳筋症ー1
10			10	ミトコンドリア脳筋症ー2
11			11	ミトコンドリア脳筋症ー3
12			12	ミトコンドリア脳筋症ー4
13			13	ミトコンドリア脳筋症ー5
14			14	ミトコンドリア脳筋症ー6
15			15	ミトコンドリア脳筋症ー7

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(24)

講義コード	※	専攻分野	小児科学	
講義題目	小児腎臓病学 II		必修/選択	選択
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づき腎臓・泌尿器疾患の病態と集学的治療を理解する			
講義計画	腎臓・泌尿器の解剖・組織、生理学を理解した上で、症例に基づき代表的な腎臓・泌尿器疾患の病態と治療を学習する。			
達成目標	1. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患についての診断・鑑別ができる。 2. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い腎疾患を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	双方向性の講義を計画しており、講義への関与・貢献度(積極発言を含む)で評価したい			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	ネフローゼ症候群の病態と診断・治療－1		1	
2	〃	－2	2	
3	急性腎炎症候群の病態と診断・治療－1		3	
4	〃	－2	4	
5	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療－1		5	
6	〃	－2	6	
7	〃	－3	7	
8	〃	－4	8	
9	乳幼児のARFの病態と診断・治療－1		9	
10	〃	－2	10	
11	乳幼児CRFに対してCAPD・HD腎移植と集学的対応－1		11	
12	〃	－2	12	
13	〃	－3	13	
14	腎生検の術者・介助者として研修－1		14	
15	〃	－2	15	

講義担当者承認

◎